

環境研究総合推進費令和7年度事後評価個票

研究課題番号	4MF-2202
研究課題名	保全ゲノミクスによる保護増殖事業対象種の存続可能性評価
研究実施期間	2022（令和4）年度～2024（令和6）年度
研究代表機関名	京都大学
研究代表者名	井鷺 裕司

1. 評価結果

評価ランク：S

2. 委員の指摘及び提言概要

種の保全問題を、遺伝子解析によって評価する手法を確立したことの意義は大きく、基礎的な学術領域の発展にも大きく貢献した。アカガシラカラスバトでは、ゲノムの多様性が低い一方、有害遺伝子が除去されたために有害変異も少ないなど、新たな知見を得た。イタセンパラでは、完全飼育により有害遺伝子が除去される可能性が高い一方で、有害遺伝子蓄積量の観点からは半野外飼育の方が優れているといった興味深い結果を得た。保護増殖事業非対象種となっているハハジマノボタンの遺伝的状況の深刻であることから早急な必要性を指摘した。希少種でも、保全効果が得られやすい種とそうでない種があることをゲノム解析で明らかにした点は今後の保全策を考える上で非常に価値ある成果である。研究機関だけでなく行政との協働について、今後の保全戦略への指針を期待する。